2026 年（後期）数理学習センター事前研修会報告書

後期の授業開始を前に、9 月 11 日（金）と 12 日（土）に数理学習センターの事前研修会を開催しました。

今学期は、新規チューターとして 3 学科 6 名（国際文化学科 2 名、スポーツ健康学科 2 名、健康情報学科 2 名）のチューターが加わり、継続チューターを含め 24 名で活動をすることになりました。

一日目は、新規正副リーダーと新規チューターの紹介、採用通知、チューターレベルアップ証明書の贈呈などを行い、高安先生のお話を伺いました。続いて、チューターによるプレゼンテーションを通して、MSLC の基本理念や「7：3 の精神」、リフェラルスキル、チュータリングの基本と活動上の留意点を確認しました。また、今期の取組と科目・運営の役割分担を共有しました。午後は、数学検定 2 級の問題演習と解答解説を行い、数理能力の向上に向けた学習に取り組みました。

二日目は、一日目の振り返りと SPI の解答解説に続き、チュータリングのロールプレイを行いました。グループごとに練習し、その内容を全体で共有することで、チュータリングの進め方や対応について確認する機会としました。午後は、広報とデータ管理の担当に分かれ、新規チューターへの業務説明や引継ぎ、広報資料の整備、データ管理や予約受付に関する準備などを行いました。さらに、科目リーダーによる科目ごとの事前準備と並行して、他のメンバーは引き続きロールプレイに取り組みました。

今期も、新規・継続チューターが協力し、互いに学び合いながら、学生が安心して利用できる学修支援の環境づくりを進めていきます。研修で確認した基本理念や役割分担を日々の活動に活かし、チーム力を発揮して、より効果的な学修支援に取り組んでまいります。

皆様のご支援とご協力・ご助言を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

以下にチューターの振り返りおよび研修会の発表スライドを紹介いたします。

◆ 事前研修会事後アンケートより

●「高安先生のお話」について

- 既成概念にとらわれないで新しい解決策を吟味する、ラテラルシンキングの重要性を感じました。私には「今まで通り今まで以上」という考え方があって、今までの良さを下げたくないという考えからある程度前提にしてうまく自由に動けないことがあるなと思った。良さは残しつつ、自分のよさや思い切りができるように意識していく。
- チューティー側の AI の使用方法はもちろんだが、チューターも教える際に適切に AI を使用することでよりよい TR につながると思うのでチューター育成の中にも AI の活用方法も取り入れる必要があると思いました。
- これからの学習支援では、単に問題の正解・不正解を見るだけではなく、学生がどの程度内容を理解し、自分の力で考えられているかを確認することが重要だと感じた。特に生成 AI の利用が広がる中では、正解できている場合でも、本当に理解して解答しているのかをチュータリングの中で確認する必要があると思う。
- 今期もより学習の質を高めるようなサポートをすることを大切にしながらも、私自身もこのセンターの一員として studentskill を得られるように MSLC の存在意義を見失わないこと、共に人間力を高めることを意識したい。

●チューターによるプレゼン①「MSLC について」（発表者：佐事奏実）

- 周りに頼りつつ、チューターとしての義務と責任をしっかり自覚して頑張っていくべきだと感じた。また、チューティーの緊張をほぐすように笑顔で接したり、リラックスできる雰囲気作りなどにも気を配ることも大切だと学んだ。
- 特に聞く 7 割、話す 3 割において、前期は自分が話す割合が多いなと感じたので、今期は聞くことを意識してチュータリングに取り組みたいと思った。報連相をたまに忘れることがあったので今期は忘れないようにしたい。
- また、注意するのは苦手と自分も思ってて、強く言う事が必須ではない、一緒に問題を解決することが大事というのが印象に残ったので一緒に解決するということを意識して行動していきたい。

- また、チューターは学習を支援する立場であるため、チューティーとの間に無意識に上下関係が生まれる可能性があることを意識して関わる必要があると感じました。

●チューターによるプレゼン②「リフェラルスキルとは」（発表者：安慶名碧）

- リフェラルスキルとは、自分たちだけでは対応が難しい状況が起こった際に、適切な専門機関や担当者につなぐための力であることを学びました。チューティーに緊急性のある問題が起きた場合には、無理にチュータリングを続けるのではなく、その状況に合った対応をすることが大切だと思いました。
- 「勝手に診断したり決めつけたりしない」というのは非常に重要だと感じた。主観では様々なバイアスがかかってしまうため、他の人の客観的な意見は求めるようにしたい。
- 守秘義務は、基本だけど気が緩んで乱れないように常に意識しようと思った。カウンターでの会話は意外と聞こえるから、話す時は、場所と方法を考えるべきである。
- プレゼンでの確認も大切だがそれで身につくわけでもないので実技としての確認も必要だと思った。

●チューターによるプレゼン③「チュータリングとは」（発表者：田浦和珠）

- チューターはチューティーに指導する立場ではなく、チューティーと一緒に考え正解を導くと言う、同じ目線に立つことが正しいチュータリングであることを知った。そのためには、チューティーとの心の信頼が大切であり、会話やコミュニケーションを通して心の距離を近づけていくことが必要であると感じた。
- ①問題の理解→②計画を立てる→③方略・実行→④振り返りという 4 つの流れを、実際の例題を使って説明していたため、新規チューターにもイメージしやすい内容だったと思います。
- チュータリングをするときに、問題をチューティーがどれくらい理解しているかを把握することが本当に大事だと思う。そのためにも質問することも大事だし、チューティーの話もしっかり聞くことも大事だと思う。
- 時間を守るというのは気をつけたい。特に前期ではチュータリングが上手くいかず、シフト時間を少し過ぎてしまったことがあった。時間を守り、どこまでやるかの目標を立てて、それを目指したチュータリングを心がけたい。

◆9 月 11 日(金)のチューター発表スライドより抜粋

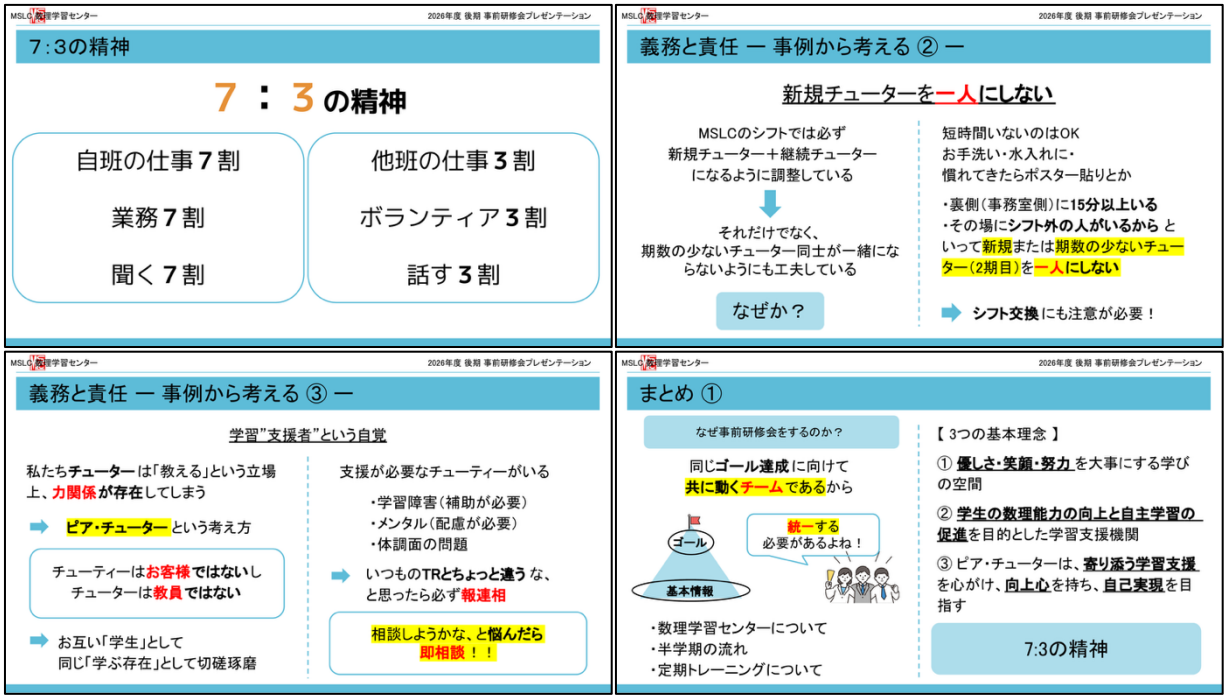

図 1　プレゼンテーション①「MSLC について」 発表者：佐事奏実

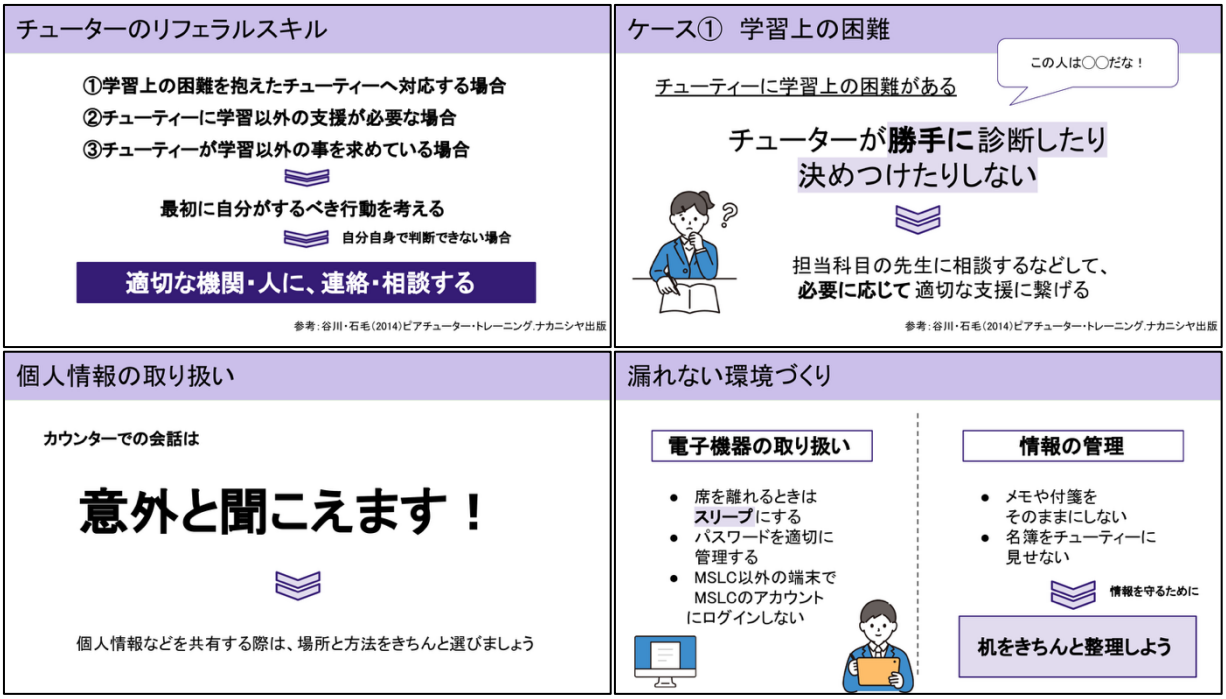

図２　プレゼンテーション②「リフェラルスキルとは」発表者：安慶名碧

◆研修会の様子

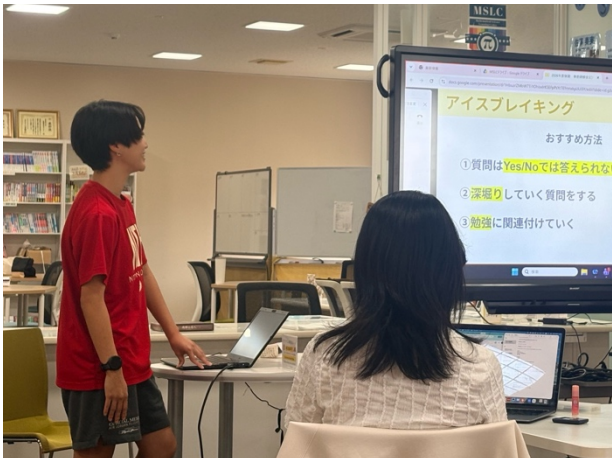

写真１　プレゼン

写真２　TR ロールプレイ

写真３　集合写真